

# 緑肥を活用した大豆の無肥料栽培に取り組んでいます

南加賀農林総合事務所

近年の肥料価格の高騰を受けて、生産者からは肥料コストの低減が求められています。このため、当事務所では、化学肥料削減を目的とした緑肥の活用に注目し、緑肥作付け後に大豆を無肥料で栽培する実証に取り組んでいます。

緑肥とは、作物への養分供給や土壌の物理性を改善することを目的に、イネ科やマメ科植物を一定の大きさまで育てた後、土壌にすき込む作物のことをいいます。

緑肥を栽培することで、後作の減肥が期待できることから、令和4年の秋、加賀市内の大豆生産者11名に緑肥の作付けを推進する説明会を開催し、約10haの水田で緑肥の実証を行うこととしました。

作付けする緑肥として、越冬性、耐湿性に優れ、化学肥料の代替えとして窒素供給量が多いマメ科作物の中から、ペルシアンクローバを選定し、10月中に動力散布機やドローンで散播しました。

その中でも10月上旬に播種したものは、排水性の良いほ場では順調に生育し、4月下旬から5月上旬にかけて目標とした生育量（ひざ丈程度の草高）が確保され、5月中旬の開花期に土壌にすき込むことができました。

緑肥が順調に生育した場合の窒素供給量は10a当たり8kgを見込めることから、後作の大豆では、無肥料による栽培実証を行いました。経過として、大豆は順調に生育し、8月時点の生育は化学肥料を施用した大豆ほ場と同等の生育となっています。

緑肥作付けによる大豆の無肥料栽培は十分に可能であると考えられますが、一方で、緑肥は播種時期やほ場条件により生育量に大きな差が見られました。当事務所では、今後、緑肥の生育に適した条件を生産者に提示し、引き続き、肥料コスト低減に向けた技術確立を通じて、農業者の所得向上に取り組んでまいります。



緑肥(ペルシアンクローバ)の生育調査(4/下)



緑肥の後作大豆(8/上)

問い合わせ先：農業振興部（0761-23-1703）